

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2005 年 12 月 8 日 (木) 2 限実施

千葉県立千葉東高等学校 第 3 学年 1,2,3,4,5 組+理系倫理選択者対象

Created by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。

学年，組，名前を記入する。

学年，組の該当個所をマークする。

出席番号をマークする。(10番以上は10の位と1の位の2カ所)

男女の欄をマークする。

1.2.3枚目のところはマークしない。

停・欠・遅・早のところはマークしない。

機械の読みとりミスの確認のため、解答欄はマークの左側に番号を記入しておく。

なおマークと数字の記入が異なる場合はマークを優先して採点します。

以上が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

- 4 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。
- 5 以下の通り補習片岡ゼミを実施します。希望者は出席のこと。

12月15日(木)朝7:20～8:20多目的情報教室にて、過去問演習

12月15日(木)朝8:30～11:00多目的情報教室にて「カントヘーゲル功利主義」

倫 理

(解答番号 [1] ~ [45])

第 1 問 次の文章を読み下の問い(問 1 ~ 問 9)に答えよ。(配点 29)

中世のスコラ哲学においてはもともと教会の教義は絶対的なものと考えられ、知識の立場から教義に反するような結論を出すことは認められないはずであった。しかし 14 世紀に入り、唯名論者 [1] などによって信仰と知識との分離が説かれるようになると、事情は変わってきているといえるであろう。確かに [1] が意図したように、これによって信仰の絶対性は守られるかもしれない。だが、逆に知識の立場からすれば、もはや教義を顧慮することなく、自由にどんな結論を導いても差し支えないということにもなるであろう。こうして、キリスト教の教義にとらわれることなく自由に考えてゆこうとする近代的精神が生じてくる。

しかしこのような近代的精神は一挙にして開花したわけではない。中世的束縛を脱してゆくためには、過渡期が必要であった。これが、(a)ルネサンスの時代である。ルネサンス期の哲学は、まずギリシア・ローマの古典の復興から始まる。これがいわゆる人文主義である。人文主義の中心地となったのはイタリアであるが、(b)ペトルルカなどはその代表的な人であった。

このような(c)人文主義的運動から、やがて内容的にも中世哲学の枠を超えた新しい哲学が生じてくるようになる。神は自然のうちに内在しており、無限の宇宙には全体として完全な調和と美とが成立しているという汎神論的自然哲学を説いた [2] などは、深く人文主義の影響を受けているといわれている。このように中世においてはまったく超越的な存在者と考えられていた神がわれわれ自身や自然のうちにも存するものであると考えられるようになったという点に、新しい時代の思想の現れを読み取ることができるであろう。

なお、近代的精神をもたらすのに力のあったものとして、われわれはルターやカルバンの宗教改革を忘れてはならない。またこの当時社会思想の方面で著名な人としては、教皇権に対して国家の権力を強調し、国家を強大にするためにはどんな手段をとっても差し支えないと主張した [3] や、近代自然法の父といわれる [4] などがある。

1515 年、教皇レオ 10 世はローマのサン・ピエトロ教会の建設のために贖宥を告示し、ドイツでの贖宥状販売を許し、「箱の中へ投げ入れられた金がチャリンと鳴るや否や 魂が煉獄から飛び上がる」と誇大宣伝をされて売りまくられた。(d)ルターは、人々が贖宥状を購入することによって、あらゆる罰と罪責から解放され、確実に救済される、と信じたことに宗教的危機を感じた。金銭による贖宥状の購入という安易な行為には、「悔い改め」というキリスト者の基本的行為がまったく無視されていたからである。宗教改革運動の引き金となった『 [5] 』は、ローマによるドイツの財政的搾取を問題としただけでなく、新しい信仰原理の提示であった。その第 1 条において、ルターはキリストが「信ずる者の全生涯が悔い改めであることを欲した」とし、第 36 条では、真実の痛悔が「罰と罪責よりの完全赦免」であると主張した。さらに、第 28 条では救済は「ただ神の御心にのみかかっている」と主張した。人はただ [A] によってのみ義とされ、そのよりどころは [B] 以外にないとする確信である。

問1 文中の [1] ~ [4] に入れるのに最も適当なものを、次の ~ のうちから一つずつ選べ。[1][2][3][4]

マイスター・エックハルト	ブルーノ	ロック	マキャベリ
ウィリアム・オッカム	ホップズ	ウィクリフ	グロティウス

問2 文中の [5] に入れるのに最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[5]

人間の尊厳についての演説	キリスト者の自由
95 カ条の論題	900 の論題

問3 文中の [A][B] に入れるのに最も適当な組み合わせを、次の ~ のうちから一つ選べ。[6]

[A]	-	[B]
信 仰	-	聖 書
律 法	-	聖 書
信 仰	-	典 礼
律 法	-	典 礼

問4 下線部(a)に関して、ルネサンスという言葉のもとの意味として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[7]

改 良	向 上	啓 示	再 生
-----	-----	-----	-----

問5 下線部(b)に関して、ペトラルカについての説明として**適当でないもの**を、次の ~ のうちから一つ選べ。[8]

俗語で書かれた抒情詩集『カンツォニエーレ』ではラウラという女性に対する愛を、言葉の持つ美しい音楽的な響きを生かした流麗な格調でうたいあげた。

ヴァントゥ山に登って、美しい自然環境が人間の教養に不可欠であることを見いだして近代登山の先駆者となった。

キケロやアウグスティヌスなどの古典研究に没頭し、キリスト教と古代ローマ文化の調和・統一をめざした。

人間の尊厳の根拠を自らの本性を自ら形成する自由意志にみとめ、あらゆる思想と信仰の調和をめざした。

問6 下線部(c)に関して、人文主義者エラスムスについての説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[9]

自由意志をめぐるルターと論争をした。

私有財産と貨幣の存在しない理想社会の生活を描いた。

ラテン語聖書をドイツ語に翻訳した。

奇抜な策略やエロチックな恋の冒険など風刺に満ちた 100 の物語を描いた。

問7 人文主義者ピコ＝デラ＝ミランドラについての説明として**適当でないもの**を、次の～のうちから一つ選べ。[10]

ユダヤ教のカバラの神秘思想やヘルメス主義、新プラトン主義の思想などからキリスト教をとらえなおした。

全ての宗教的信仰を否定し、自由意志を持った人間が世界の中心であり、自然の支配者であるとした。

人間の究極の目的は、自然の秘密を知り、大宇宙の創造者である神と一致することであるととした。

人間のみが、自らの自由な意志によって自分の欲するところの者となるように神によって定められているとした。

問8 次の文はブルクハルトの『イタリアルネサンスの文化』からの引用である。文脈から考えて文中の空欄[C]に入る言葉として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[11]

ルネサンスの文化は、はじめて[C]の完全な内実をそっくりそのまま発見して、それを明るみに出すことによって、世界の発見にさらに大きな功績を加える。まずこの時代は、個人主義を最も強力に発展させる。ついでそれは個人主義をあらゆる段階における個性のもっとも熱心な、もっとも多面的な認識にみちびく。人格の発展は、主として自己及び他人における人格の認識に結びついている。この二つの大きな現象の間に、我々が古代文学の影響を与えなければならなかったのは、個性的なものならびに普遍的に[C]的なものの認識と描写の仕方が本質的にこの媒体によって色づけられ規定されるからである。しかし認識の力は、時代と国民の中にあつたのである。

古 典 人 間 信 仰 自 然

問9 下線部(d)に関して、ルターの著作中の言葉として**適当でないもの**を、次の～のうちから一つ選べ。[12]

すべてのキリスト者は真に教会身分に属するのであって、お互いの間には職務上の区別以外に何の差別もない。

魂はキリストについて説かれた神の御言葉、すなわち聖なる福音の他には、天にも地にもこれを生かし義とし自由とし、またキリスト者とするものをもたない。

平和をつくり出す人たちはさいわいである。彼らは神の子と呼ばれるであろう。義のために迫害されてきた人たちはさいわいである。天国は彼らのものである。

キリスト者はすべてのものの上に立つ自由な主人であって、何人にも従属しない。キリスト者はすべての者に奉仕する僕であって、何人にも従属する。

問10 カルヴァンの予定説の記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。

[13](1994年センター本試験より)

神はあらかじめすべての人間に救いをもたらすことを約束しており、救いとこの世での倫理的な生活とは無関係である。

人間の行為は、自由な決定によるように見えても、すべてはあらかじめ自然の必然性によって決定されている。

恩寵を受けて救われる者とそうでない者との区別は、この世での行為の善悪に応じて神が決定する者である。

救われる者と救われない者との区別は、人間の行いによって決まるのではなく、神によってあらかじめ定められている。

第2問 次の文章を読み下の問い(問1～問9)に答えよ。(配点27)

近年、自然科学の発達が目覚ましい。このことは、宗教の消滅を意味するわけではない。ある調査によれば、現在でも「神を信じている」アメリカの自然科学者は全体の39%である(注)。西洋思想史を振り返りながら、(a)宗教的信仰と自然科学的知識との関係について考えてみよう。

13世紀の[14]は、理性的認識は神の恩寵の下でこそ成立することを前提として、両者の調和を説いた。けれども、14世紀以後、自然を研究することと神を信仰することを切り離す傾向が見られるようになった。

近代自然科学が成立するころ、(b)ベーコンは、科学技術を通じて、知識および人間のあり方の革新を企てた。また、実験および観測機器を用いた自然観察というガリレイの方法は、自然研究の基本となった。ところが、(c)コペルニクス、ガリレイ、ケプラー、ニュートンなど、近代自然科学の成立に寄与した人々のほとんどは、科学者であると同時に、敬虔なキリスト教信者でもあった。彼らは、[A]という確信をもって、自分たちの研究を推し進めたのである。つまり、彼らの科学に対する態度は、創造主である神の言葉を自然の中に読み取ろうとするものであった。この意味において、彼らの自然研究はキリスト教的色彩を強く帯びていた、ということができよう。

その一方で17・18世紀のヨーロッパでは、(d)啓蒙主義と呼ばれる思想運動が展開された。その特徴の一つとして、知識をキリスト教の枠組みから解放しようとしたことが挙げられる。とりわけ(e)フランスの啓蒙主義者たちの間では、科学的・合理的な方法や考え方で伝統的な権威を打破しようという態度をとる傾向が存在した。そして、彼らは自然科学を、経験的な事実に基づいて構成される知識の体系として考えた。

自然科学とキリスト教信仰との分離を要求した啓蒙主義の思潮は、近代科学の発達に寄与した。これは宗教の力を弱める一因ともなった。しかしながら、科学と宗教は複雑にからみあっており、そう簡単に分離できるものではない。

注 この調査は、1996年に米国ジョージア大学エドワード・ラーソン氏らが実施したものである(1997年4月4日『朝日新聞』による)

問1 文中の[14]に入れるのに最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。
(1999年センター本試験より)

アウグスティヌス アンセルムス トマス・アクィナス クザーヌス

問2 文中の[A]に入れるのに最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[15]
神は自らの本質である自由を実現する過程として世界の歴史を動かしている
キリスト教の信仰の束縛から解放されれば新しい科学的な世界観を確立できる
神は本質的に自然と一致しているのであり、世界を創造したわけではない
神が創造した自然的世界の法則を探究することによって神の意志を知ることができる

問3 下線部(a)に関してこれら二つを両立させていたパスカルの思想の説明としてもっとも適当なものを、下の ~ のうちから一つ選べ。[16]

大きな宇宙の中で唯一思惟をもった人間存在の偉大さと尊厳を強調し、幾何学の精神で自然を支配することを説いた。

人生とは気晴らしであるとして、戯れとしての生を満喫することの重要性を説いた。

人間の道徳性が行為の過剰と不足の間者であることにありとて、精神的なバランス感覚の重要性を説いた。

デカルトの神は自我の明証性から論証されたものに過ぎないとして批判し、生きた神の愛の永遠の秩序に生きることを教えた。

問4 下線部(b)のベーコンは、正しい知識の獲得を妨げるものとして四つのイドラを挙げた。次の会話において「劇場のイドラ」に囚われているものと読み取れるのは誰であるか。下の ~ のうちから一つ選べ。[17](1999年センター本試験より)

妹(中学生): たまたまテレビをついたら、大学の先生がしゃべってたわ。なんだか面白くて、最後まで見ちゃった。その先生はねえ、プラトンという哲学者を研究してるんだって。そして、アイデアというものが存在しているって言ってたよ。お兄ちゃん、プラトンやアイデアなんて知っているの?

兄(高校生): プラトンというのは、有名な古代ギリシアの哲学者だよ。アイデアってのは、一口で言うとねえ、事物の本質としての理念的な実在、とでもいうとこかな。倫理の時間に習ったよ。

母: お兄ちゃんは事物の本質としての理念的な実在なんて偉そうに言うけど、わかってんのかな。ところで、その大学の偉い先生、ほんとうに自分でもアイデアが存在していると思っているのかしら? わたしたちのふだんの生活では、アイデアなんて意味があるとはとても思えないわ。

妹: じゃあ、お母さん、プラトンは間違っているの? お父さんはどう思う?

父: お父さんは、アイデアかどうかは知らないけど、何か理想的な本物の世界というのは、あってもおかしくないと思うよ。

母: そう思うのはお父さんの性格からじゃないかしら。昔から何事も理想化しないと気がすまない性分だったからね。

兄: お父さんもアイデアみたいなものはあるって言うし、倫理の教科書や高校の先生の説明も分かったな。やっぱりアイデアはあるんだよ。

母: そうかしら。

妹: みんな話を聞いてたら、なんだかよくわからなくなっちゃった。せっかく面白い考えだと思ったのに。

兄	妹	父	母
母と兄	父と妹	母と妹	父と兄

問5 下線部(c)のそれぞれの人物についての説明として最も適当なものを、下の ~ のうちから一つずつ選べ。

コペルニクス [18] ガリレイ [19]

ケプラー [20] ニュートン [21]

イギリスに生まれ、心臓というポンプの機械的な運動が血液を循環させていることを明らかにした。

イタリアに生まれ、水銀柱の実験で真空の存在を実証し、アリストテレスの真空嫌悪説を否定した。

イギリスの数学者、物理学者で古典力学の確立者として、力学・数学・物理学等の分野で業績を残したとともに、錬金術や神学の研究にも力を注いだ。

イタリアのピサに生まれ、慣性の法則や落体の法則を発見するとともに、宇宙という書物が数学の言葉で書かれているということを主張した。

ドイツに生まれ、新プラトン主義や神秘主義的な宗教的情熱にもとづいて宇宙の調和を探究し、従来円運動で説明されていた惑星の運動を楕円軌道であらわした。

ポーランドに生まれ、イタリアに留学している際にギリシャの古文獻にふれて太陽中心説を知り、地動説による惑星の運行をとらえた。

問6 下線部(d)に関して、啓蒙主義の歴史把握を類型化したものとして最も適当なものを、下の ~ のうちから一つ選べ。 [22] (1988 年共通一次本試験)

あらゆる事態が時間とともに進歩・発展する過程

一回限りのものの無規則な生成消滅

天体の運行や四季の推移のような同じものの循環

運動するものも変化するものも存在しない静止状態

問7 下線部(e)に関して、フランス啓蒙主義者ヴォルテールの著作として最も適当なものを、下の ~ のうちから一つ選べ。 [23]

『ペルシャ人の手紙』

『自然の体系』

『人間機械論』

『哲学書簡』

問8 下線部(e)に関して、フランス啓蒙主義者ディドロの説明として最も適当なものを、下の ~ のうちから一つ選べ。 [24]

英語著作のフランス語翻訳家として『百科全書』の編集を担当し無神論と唯物論の立場をとった。

数学者、政治家としてフランス革命に参加し、教育を宗教的権威や行政的権力から独立させようと試みた。

数学者・物理学者・哲学者としてすぐれた業績を残し、自然科学の経験的知識を重んじる実証主義の立場をとった。

医師・哲学者として、人間は機械であり、人間の思考は、脳髄の単なる性質にすぎないと主張した。

問9 本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、下の ~ のうちから一つ選べ。
[25](1999 年センター本試験より)

複雑にからみあった宗教と科学だが、両者はいつか統合されて、それらに本質的な区別はなくなるだろう。宗教と科学という二つの領域は、互いに他を排除することなく、調和することが望ましい。

これまでの歴史を振り返ると、宗教は世界中のどこの文化でも見られる現象である。科学が宗教を駆逐することはない。多くの人々にとって、宗教は生きていく上で大切なものである。

現代では、科学のほうが宗教よりもすぐれていることは、明らかである。近い将来、宗教は科学によって駆逐されるだろう。これは時代の流れから見ても理解できることである。

宗教と科学を独立した二つの領域としようとする考え方もある。しかし、両者の関係は、こうした考え方だけにおさまるものではない。むしろ、科学者の真理探究が信仰に裏打ちされている場合もある。

第3問 次の文章を読み下の問い(問1～問9)に答えよ。(配点28)

合理論哲学の創始者はデカルトである。彼は人間の理性を信頼し、われわれが理性的に確実なものから確実なものへと推理を行ってゆけば、絶対に真理を認識しようと考えたのであった。こうしてデカルトはまずあらゆることを疑って、もはやどうしても疑いえない確実な真理として(a)「われ思う、故にわれ在り」ということを打ち立て、そこからはじめに[26]の存在、さらに物体の存在ということも推理によって確実な真理として演繹されると考えた。このようなデカルトの合理論哲学は、(b)理性的に認められるもののみを信頼するという近代精神をもっともよく示しているといえるであろう。デカルトの後を継いで合理論のうちに数え入れられる人々としては、その名著『[27]』を幾何学的秩序に従って論証しようとした(c)スピノザ、(d)機械論的自然観と宗教的な目的観とを調和しようとしたライプニッツ、ライプニッツの哲学を基調としながら、徹底した合理主義的立場にたつて包括的な体系をつくりあげたドイツ啓蒙主義の哲学者ウォルフなどがある。

合理論に対して経験論の哲学は、人間の認識において経験というものの果たす役割を重視する。この点で経験論は合理論とまったく対立するのである。経験論によれば、われわれの認識が経験の助けを借りないでは成立しない以上、合理論のように経験を無視して理性的認識のみに頼ることは、まったく不可能であるというのである。しかしこのような経験論の哲学も、人間の経験によって確かめられるもののみを認めようとする点で、合理論とは違った意味においてではあるが、やはり人間の立場を重んじるという近代の精神を表明しているとみることができよう。

すでに(e)フランシス・ベーコンは経験を重んじて自然の研究をすべきであると主張し、自然研究における帰納法の重要性を力説した点で、また(f)ホブズも機械論的自然観を絶対と考え、精神的なものをも同じく機械論的に説明しようとした点で、いずれも経験論的立場にたっているが、真に経験論の哲学の基礎を置いたのはロックである。ロックは、人間の認識はすべて感覚と反省という2種類の経験から生ずるものであり、この経験によってわれわれの心に単純観念が与えられる。そしてわれわれのもっているいかに複雑な観念といえども、その起源を探ってゆけば、すべてこの単純観念に分解しうるのであり、すなわちそれは単純観念の結合によって生じた複合観念にほかならない、と考えた。このような(g)ロックの立場はパークリー、ヒュームらによって展開されたが、とくにヒュームは経験論的立場を徹底し、[28]的傾向を示している。

問1 文中の[26]～[28]に入れるのに最も適当なものを、次の～のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

[26] 精神 理性 情念 神

[27] 单子論 省察 エチカ プリンキピア

[28] 懐疑論 独断論 二元論 原子論

問2 下線部(a)に関して、この言葉の説明として**適当でないもの**を、次の ~ のうちから一つ選べ。[29]

つまり、人間の精神活動があつてはじめて自分も含めた事物の存在があるのだから、精神と物体は一体となって主観に現前する。

少しでも疑問をさしはさむ余地のあるものを全部、絶對的に虚偽なものとして放棄したすえに見出した真理である。

これは、どのような懷疑によつても疑いえない明晰かつ判明な真理であり、哲学の第一原理として受け入れることのできるものである。

コギトとは思惟する自我のことであり、延長をもつた身体が存在に先立ってその存在が確認される精神的な存在である。

問3 下線部(b)に関して、すべてが疑わしく何も信頼できないとき、デカルトはどのような道徳に従うべきであると語つたか、その道徳として最も適當なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[30]

暫定道徳 習性的徳 高邁の徳 自然道徳

問4 下線部(c)に関して、スピノザの「神即自然」という概念の説明として最も適當なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[31]

万物は精神も物体も含めてすべて神のあらわれであり、一切は神の内的必然によつて生起する。

精神を第一義的存在とし、物質と生命とは生命がまだ眠り、あるいは無意識的に活動している段階と位置づける。

無限な宇宙の第一原因が宇宙靈で、それによつてまとまりをもつ無限な宇宙を神の展開と見なす。

人間や動植物だけでなく、無生物なども含めた自然界に、広く神々の存在を認めて信仰の対象とする。

問5 下線部(d)に関して、ライプニッツのこの思想の名称として最も適當なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[32]

予定調和説 救済予定説 機会原因説 心身平行説

問6 下線部(e)に関して、フランシス・ベーコンの著作として**適当でないもの**を、次の ~ のうちから一つ選べ。[33]

『人間本性論』 『ノウム・オルガヌム(新機関)』
『ニュー・アトランティス』 『学問の進歩』

問7 フランシス・ベーコンのことばとして**適当でないもの**を、次の ~ のうちから一つ選べ。[34]

単純枚挙によって進行する帰納法はあやふやに結論する。

人間の知と力は一つに合する。

自我とは知覚の束である。

自然は服従することによってでなくては征服されない。

問8 下線部(f)に関して、ここで述べられているホッブズの哲学の説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[35]

あらかじめ感覚の中にはないものは、理性の中にはありえないとした。

世界には原因のみがあって目的はなく、永遠の過去から必然的に現在が生起するとした。

哲学の対象は物体であり、人間も快を求め苦を避ける欲求が意志を決定するとした。

人間のみが自由意志を持ち、人間以外の動物は自然法則に定められた運命に従う。

問9 下線部(g)に関して、ロック、バークリー、ヒュームの思想として最も適当なものを、下の ~ のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

ロック [36]

バークリー [37]

ヒューム [38]

因果関係から「ひき起こす」とか「力」とかいう概念を排除し、それは「恒常的连接」という関係にほかならないとした。

人間の心はタブラ・ラサであるとして、デカルトの認めた生得観念を否定して後天的に心に観念が刻まれていくことを示した。

絶対的に確実なものを求めてすべての感覚知を否定し、すべてを疑ったのちにも「考える私は存在する」という真理は疑いえないと考えた。

数学や自然科学は純粹悟性概念の協働によって確実な学的認識たりえているのであり、感性的制約を超えた対象にかかわる形而上学は、確実な理論的学としては成立しえないとした。

何ものも「心の外」には、すなわち知覚を離れては存在しないとすれば、もはや物質的実体の存在を認める余地はないとした。

自然の奴隷としての人間が、観察と経験とに基づく自然の解明を通して自然の支配者へと反転する過程と方法を研究した。

第4問 次の文章を読み下の問い(問1～問7)に答えよ。(配点16)

政治社会の成立を個人間の契約に求め、それによって政治権力の正統性を説明する理論を社会契約説という。17～18世紀のヨーロッパにおいて全面的に展開され、国家を個人の作為とし、政治的義務の根拠を個人の選択に求めることによって、(a)権力による事実的支配であった主権国家を、被治者の自発的結社に組みかえる近代国家の構成原理として、歴史的役割を果たした。これは、個人の間には(b)政治権力の存在しない自然状態を想定し、各人に(c)自然権を認めるとともに、これらの個人が相互契約によって社会状態を構成すると説くものである。

ホブズは著作(d)『リヴァイアサン』の中で、「万人の万人に対する戦争」の克服のために絶対無制限の権力が必要であるとして、各人が特定の自然人または合議体を主権者として受け入れることを相互に契約するとき、その間に政治社会すなわち国家が生まれると説いた。

これに対して、(e)ロックは『統治論』の中で、まず相互契約によって社会を構成した諸個人が、多数決によって選んだ立法機関に統治を信託すると説き、その目的を自然権の保障に求めることによって、権力に制限を加えた。

18世紀に入ると、社会生活の組織化が進み、また社会契約は歴史的事実でないという経験科学的批判が起こったが、その中で(f)J. J. ルソーは『社会契約論』のなかでこの図式に新しい内容を与え、この理論の革命的意味を明らかにした。彼によれば、主権はつねに契約によって社会を構成した諸個人の全体すなわち人民にあり、この人民はそのまま立法機関として定期的に集合し、その意志すなわち一般意志を法として制定するが、その執行は別に政府を選んでこれにゆだね、しかも政府の存立は全面的に人民の信任に依存するのである。

こうして、自由平等な個人の自然権から出発した社会契約説は、政治権力制限の理論から、人民主権の理論へと展開し、自由主義および近代民主主義の理論的骨格をつくり出して、近代国家の構成様式に絶大な影響を及ぼした。アメリカ独立宣言を起草したジェファソンが憲法を社会契約と考えて、世代ごとにその見直しを求めたのは、その一例である。社会契約説は、だいたいフランス革命の終了とともに理論的生命を失ったが、権利義務関係としての公的秩序という近代国家の機構の背景にはなお潜在しているといつてよい。

問1 下線部(a)に関して、この頃の権力による事実的支配を正当化する思想としてもっとも正しいもの、次の～のうちから一つ選べ。[39]

目的の王国説 王権神授説 政治学説 国民主権説

問2 下線部(b)に関して、次のような自然状態を唱えた人物として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[40]

理性の法である自然法の支配する自由・平等な状態であり、他人の生命、自由、所有物を犯してはならないと教える、基本的には平和な状態

ルソー ロック ロールズ ホブズ

問3 下線部(c)に関して、次のような自然権のあり方を唱えた人物として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[41]

各人が、彼自身の自然、すなわち彼自身の生命を維持するために、彼らの欲するままに自己の力を用いるという各人の持つ自由

ルソー ロック ロールズ ホッブズ

問4 下線部(d)に関して、『リヴァイアサン』の中の記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[42]

あらゆる社会の歴史は階級闘争の歴史である。自由民と奴隷，都市貴族と平民，領主と親方，要するに圧制者と非圧制者は常に対立してきた。

国家は一個の人格であり...この人格を担う者が主権者とよばれ主権を持つといわれる。そして彼以外のすべての者は，彼の国民である。

主権が譲り渡すことができないと同じ理由で，主権は代表されることはできない。それは本質的に一般意志に存する。

君主たる者には，野獣と人間とを巧みに使い分けが必要になる。なかでも，狐と獅子を規範とすべきである。

問5 下線部(e)に関して，ロックが『統治論』の中で国家権力の濫用を防ぐため，政治権力の分立を唱えた。彼が区分した権力の組み合わせとして最も適当なものを，次の ~ のうちから一つ選べ。[43](1999 センター追試験より)

立法権・執行権・抵抗権 立法権・執行権・司法権
立法権・執行権・連合権 立法権・司法権・抵抗権

問6 下線部(f)について，ルソーの主張と合致するものを，次の ~ のうちから一つ選べ。[44](センター1996 年本試験より)

国家という共同体の目的は共通善であり，それ自体が至高のものである。

各人は，平和の希望が存在する限り，平和に向かって努力すべきである。

人間は自由なものとして生まれたが，至るところで鎖につながれている。

人は自分の存在を維持するために，他人たちと一つの身体を構成する。

問7 ルソーの「第二の誕生」という概念が含まれる著作として最も適当なものを，次の ~ のうちから一つ選べ。[45]

『社会契約論』 『エミール』 『人間不平等起源論』 『学問芸術論』

問題は以上です。